

〔月刊〕

キャッチ ピース

9

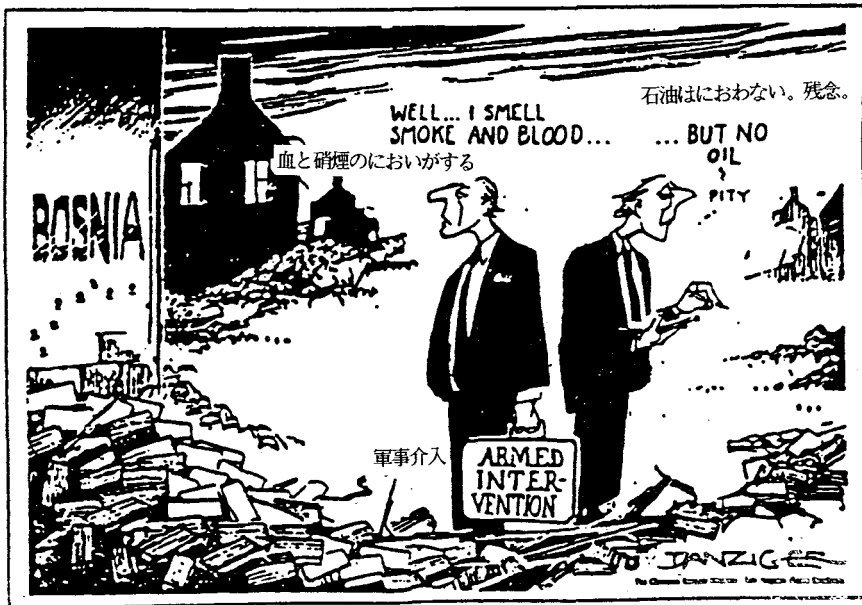
通巻88号

1993.4

定価●100円

自衛隊の海外派兵を食い止め、大幅軍縮を！
米軍基地を撤去しよう！
反核運動を継続し、核廃絶を！
憲法9条を世界に！
市民による平和政策を提起しよう！
草の根の国際共同作業をすすめよう！

月刊トマ喰い虫改題



Intern'l Herald Trib

北海道：反PKO札幌人間の鎖/軍縮と地域おこしを考える

名寄フォーラム

沖 縄：弾薬庫に化学兵器 首都圏：軍事費拒否行動デー

★維持会員（月間）

個人 1口 1000円

団体 1口 2000円

<会費は本紙購読料をふくみます>

★参加会員（月間）

個人 1口 500円

団体 1口 1000円

★通信会員

年間

3000円

脱軍備ネットワーク

キャッチピース

あなたも会員・読者に！

連絡事務所 ● 〒223 横浜市港北区箕輪町3-3-1

TEL 045(563)5101

FAX 045(563)9907

郵便振替 ● 東京6-136148 口座名「キャッチピース」

自衛隊

北部方面隊を

取り囲んだ

反PKO人間の鎖

札幌から

きっかけは簡単

自衛隊総監部北部方面隊の正面ゲートを含む約五百メートルを、自衛隊の海外派兵に反対する市民たちの手が、しっかりとつながった。寒い中、子供も大人も、車椅子で参加した人たちも、つないだ手を高く掲げ、思いを伝えようと一生懸命だった。

自衛隊の海外派兵に対し、それぞれの思いを持って反対の意思表示を人間の鎖という行動で表そう、と全道・全国の市民運動、労働運動を進めている仲間たちに呼び掛け、この「三・二七人間の鎖行動」に向けて

話し合いを重ねて来た。ここまで何と長かったことか……

津田祥子
市民ネットワーク北海道代表

自衛隊問題を専門に？運動している人たち、憲法問題を徹底して研究している人たち、いろいろな人たちが様々な思いでこの「三・二七人間の鎖行動」に参加した。いつ分裂するかもしれない、分裂することだけは避けなければいけない、そんな思いが交差しながら。

私たちが、この運動に関わったきっかけは簡単だった。人間が人間らしく生きていくその暮らしの根本には、戦いのない毎日があったることそして、その積み重ねの中から代理人運動が生まれ、四人の仲間たちを



議会の場へ送り、政治を自分たちの側に引き寄せて、参加・分権・自治を目指しながら二年。暗中模索の状態で、毎日様々な問題とぶつかっている私たちにあって、PKO法案が通っていった昨年の六月十五日の国会は全く許せないものだった。

二度と戦争はしないと、世界に誇

れる平和憲法のもとに暮らして来た四七年間を、アジアへの戦後補償問題も置き去りにしたまま、きちんと議論をしないままに、数の論理を押し通してカンボジアへ自衛隊を送り出してしまったことに対し、強い怒りと悔しさを味わった。

なしくずしに、こたわってきたものが次から次へと壊されていく事は、まるで自分の人生を否定されていくようでとても辛い。

いっしょにPKO!

と、単純明快に参加したのだが、現実には進まなかった。労働組合のように大勢の人達を動かす使命を背負って参加している人、ずっと憲法問題にこだわって参加している人、事が起こると即行動！を強調する人、自衛隊問題にやたら詳しい人etc...それぞれの主義主張を繰り返し、話がなかなか前に進まない。実行委員会はいつも混乱していた。毎週水曜日の夜行っていた事務局会議もケンケンガクガク、遅くまで続き、疲れ果てて帰宅する。憎っ

くきPKOめ!

日曜日も出かける。我が家には受験生が二人もいたのだが、時は情け容赦すぎて行く。夫や子供達に家事を押し付け、妻(母)は出かける。運動専業主婦はその都度深い自己嫌悪に陥っていた。：我が家の事情をばやいている暇はなかった。

分裂解散することもなく、それぞれの思いを持って、約五〇〇人の市民が人間の鎖という行動で、自衛隊の海外派兵反対を訴えた。市民ネットワークからの参加は約七〇名。

運動はつづいている

三・二七の後も、自衛隊基地が点在する北海道のあちこちで抗議行動が続く。札幌でも四月六日に全道労働センター主催で約千人の集会和デモが行われ、同じ日の六時から、実行委員会の若いメンバーたちは、自衛隊の出動に抗議し、七十時間のハンガーストライキに入っていた。

札幌はなごり雪が降るとも寒い三日間で、テントを警察によって撤去されてしまった彼らは、シートにく

るまって寒さを凌ぎ貫徹した。

にもかかわらず、その間、土田厚仁さんという若者が日本人で初めてPKOの犠牲者となってしまった。

四月九日には地区労が主催して、彼への追悼と抗議の集会在冷たい雨の中行われた。

その後ささやかに、私たちは七時間半のハンスト終了集会をしたが、犠牲者が出てもまだPKO参加五原則には違反していない、と言い切っている日本政府への不信感を増大させた。

全道・全国の沢山の自衛隊海外派兵反対の人たちの思いでできた、「送るな!自衛隊、共同行動」は四月二五日に解散するが、この運動はつづいている。

混乱しながら進めてきた毎日でも今は懐かしく、こうしてできていく人と人とのネットワークを大切にしながら、PKO法が廃案になるまでこの地球上から戦いがなくなるまで、こうした市民参加の運動が点から面の運動へとつなげていけたら、と願ってペンを置く。





軍隊のない 地域への道 を探る

田巻一彦
編集部・神奈川を非核にする県民運動

雪まだ深い北海道・名寄（なよろ）を訪ね、三月二十七日の「軍縮と地域おこし」を考える名寄フォーラム」に参加してきた。

陸上自衛隊は「中期防衛力整備計画」の中で、北海道の第二師団から一個連隊を削減する計画である。その候補として、旭川、名寄、留萌、俱知安などの部隊の名があがった。すると、各地では町をあげての自衛隊削減反対運動がはじまった。市議会は次々と「削減反対」決議を採択。しかも、「自衛隊反対」の

はずの社会党の議員や市長までが、それに加わったのである。ただでさえ、「過疎化」に悩む今、自衛隊がなくなったら、地域は成り立たない。これが、超党派の「自衛隊引き止めキャンペーン」の動機だった。たとえば名寄の場合、人口三万人のうち、約九〇〇人の第三普通科連隊が削減されれば、家族をいれて約二五〇〇人の人口流出になる。

た。さらに「日本もその枠の外にはいられない。防衛費の削減も不可避だ。この有利な状況をいかして、新しい価値を創造していくことが私たちに求められている」。前田さんは第二次大戦後の「旧軍港市転換法」や沖繩の「軍転特措法案」の例をあげ、「軍縮後の地域」への筋道を住民自身が考え、自治体や国に要求していくことが大切だ、と結んだ。

「過疎」かの袋小路から抜け出す道を探りあ

は、自衛官の食費だけで年間三億円。また、自衛官の可処分所得六〇億の二次、三次波及まで考えると、一〇〇億円を越す。飲食店の総売り上げが三〇〇億円だからその比重は押して計れるでしょう。」「臨調行革路線」によって、過疎化と札幌への一極集中はいっそう加速され、自衛隊依存も深まった。「今こそ、冷戦終結後の自衛隊はどうあるべきかを、きちんと考え、名寄の地域おこしについての『市民共通の土俵』を作ることが必要だ」と木村さんは述べた。

●地域作りは市民の土俵で（木村さん）

地域経済に詳しい木村純さんは、名寄は典型的な過疎地域型依存構造であるとその実態を報告した。「市税収入の二十八％は自衛隊員と家族によるものだ。地元業者との取引引きは、自衛官の食費だけで年間三億円。また、自衛官の可処分所得六〇億の二次、三次波及まで考えると、一〇〇億円を越す。飲食店の総売り上げが三〇〇億円だからその比重は押して計れるでしょう。」「臨調行革路線」によって、過疎化と札幌への一極集中はいっそう加速され、自衛隊依存も深まった。「今こそ、冷戦終結後の自衛隊はどうあるべきかを、きちんと考え、名寄の地域おこしについての『市民共通の土俵』を作ることが必要だ」と木村さんは述べた。

平和運動の練習問題

一番よく見える場所」だと言った。僕がもっとも強く感じたのは、この国の民主主義の欠如だった。軍隊は住民に何の相談もなくやってきて、地域を乗っ取っておいで、そして今度は何の相談もなく立ち去ろうとしている。

●生き物として考えよう（加藤さん）
つづいて「私は、この問題を『組織』や『立場』ではない、一人の人間、生き物として考えたい」。加藤多一さんは、このように話し始めた。加藤さんは名寄市に近い人口二〇〇人の剣淵町でニワトリを飼い、無農薬の米や野菜を食べながら暮らしている。「過疎だ、ピンチだ、と言うが本当に絶対的なピンチか。名寄の人口二万九〇〇〇人、周辺の名寄文化圏・経済圏まで広げれば、十五万人になる。これでやっていけないはずはない」

●名寄は日本の縮図（参加者）
フロアーからも活発な討論があいっだ。経済だけでは無い地域の活力全体への自衛隊の影響の大きさ、住民自治が根付いていない地域の弱さ、情報を公開しない自衛隊や政府への不信を訴える一方、自衛隊がなくてもやっていける、「地域おこしプラン」をみんなで作えよう、というよびかけもあった。最後にマイクをとった女性は「名寄は日本の矛盾が

「自衛隊の削減と国鉄問題を一緒にしないでほしい。軍隊の本質は人を殺すことで住民を守ることではないのだから」「自衛隊がいなくなったら困る、という人たちは、もし一万人に増強する、といわれたらどうするのだからか」。そして「子供たちに説明のできるような選択をしよう」と訴えた。

「削減」ではなく「再編成」なのだが、地域から、自衛隊がいなくなることはない、という皮肉な事態。問題は平和運動全体に投げかけられている。

てることを目的に開かれた。

軍縮後の地域像を描く

フォーラムを準備したのは、現地の地区労や国労争議団の人々。首都圏からは労組や市民運動の活動家三十二人が「現地交流団」のツアーを組んだ。僕もその一員に加わった。東京からジェット機で一時間半、旭川からバスでさらに一時間半、吹雪く国道を北へ走り、会場の名寄市民文化会館に到着。そこには一八〇人の人々が集まっていた。

集会は遠藤洋一さん（福生市議）、「キヤッチピース」運営委員）をコーディネーターとしたパネルディスカッション。パネリストは、ジャーナリストの前田哲男さん、地元の子童文学者、加藤多一さん、そして、名寄市立短期大学助教授の木村純さんの三氏である。

●軍縮の流れは止まらない（前田さん）

前田哲男さんは「冷戦終結後の世界は、きわめて流動的で、民族・宗教・南北対立などが表面化し、手放して楽観はできない状況」だが、「世界戦争の時代は終わった。世界の潮流が軍縮に向かっていることは間違いない」とアメリカ、ロシア、ドイツの例、フィリピンからの米軍撤退の例などを具体的に説明し

米軍庫に古弾薬 毒ガス貯蔵

平和資料協同組合（準）が情報公開法でつきとめる

山中悦子

編集部・神奈川を非核にする県民運動

かねてより予測されていた通り、沖繩の米軍基地内に化学兵器が貯蔵されていたことがこのたび平和資料協同組合（準）代表の梅林宏道氏によって明らかにされた。
私たちキャッチピースが重点的課題として発足への準備を進めている平和資料協同組合（準）では米国の情報公開法を駆使して、在日米軍と米軍基地に関する米軍情報を系統的に入手し分析を行っている。

が張り巡らされ、赤外線利用のセンサー（自動監視警報器）も備えられている。

「核持ち込みに関する日米の口頭了解があった」というライシヤワー発言の影響もあり、当時「辺野古弾薬庫の核・化学兵器貯蔵疑惑」は賑やかに取り沙汰されていた。その様な中で山羊と牛の草をはむ姿の確認だったのである。放射能や毒ガスが漏れた場合、人間より先に死んで、人間にその危険性を知らせてくれる動物が...ということで山羊や牛たちは「核・化学兵器の存在」の立証者として一躍脚光を浴びたのである。当時渡具知市長は写真を持って「危険な兵器の逆探知動物ではないか」と海兵隊に抗議。その結果、この時日本政府及び海兵隊は、辺野古弾薬庫には、核・化学兵器の整備能力を持つ第三補給大隊弾薬中隊第一分隊が駐留していることを公式に認めた。しかし山羊や牛は当然のことながら、核・化学兵器の存在を決定的には証明し得ず、「部隊の存在と核・化学兵器の存在は別」として、これらの兵器の存在は認められないままに終わった。

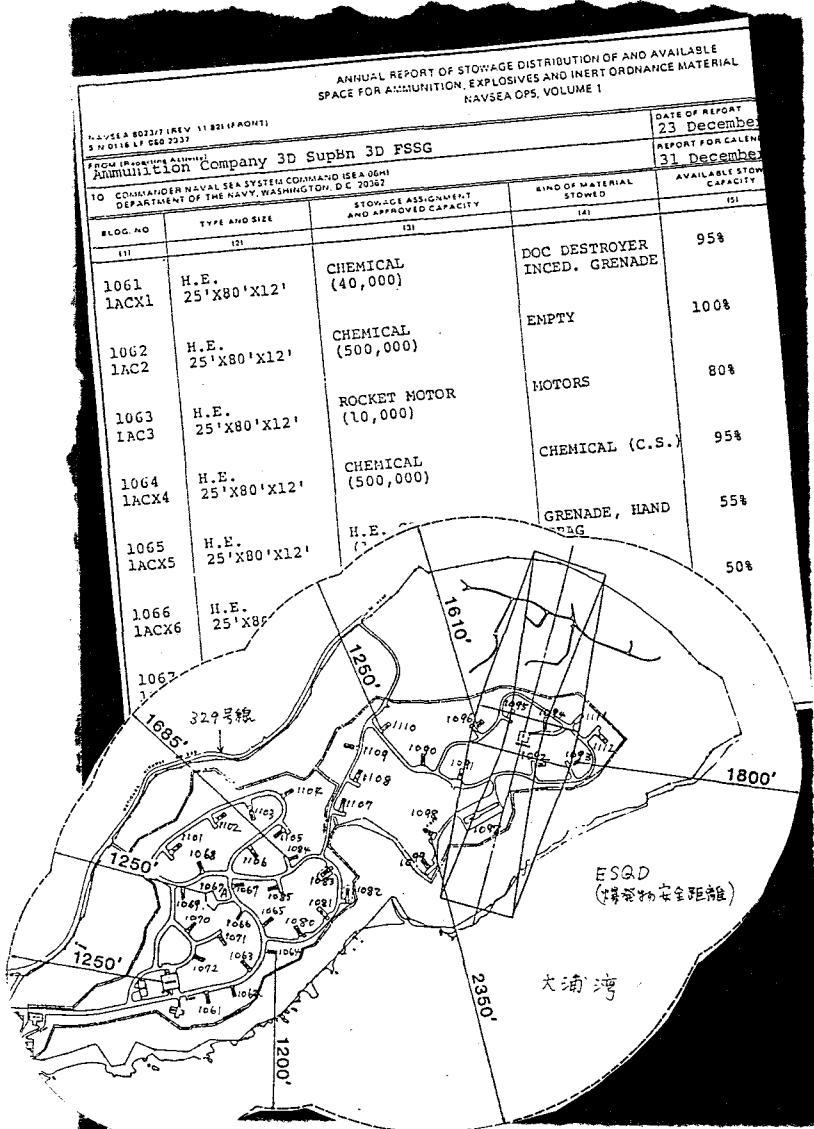
化学兵器貯蔵の事実

今回梅林氏が情報公開を請求して手に入れたのは、海兵隊基地キャンプ・シュワブのマ

今回は、沖繩県名護市辺野古弾薬庫に毒ガスが貯蔵されていた事実を証明した。

核・化学兵器貯蔵疑惑は 以前から

一九八一年、辺野古弾薬庫内で山羊二十数頭、牛七、八頭が草をはんでいるのが確認され沖繩県議会や国会で論議を呼んだ。たかが山羊や、牛が草をはんでいただけでなぜ県議



スタープランである。マスタープランは、基地の土地利用と施設開発についての中期的な見通しを与える計画書であるが、そのマスタープランは一部に辺野古弾薬庫に関する計画も含んでいて、付録に、八五年次の弾薬貯蔵状況を示す報告書がつけられていた。

この報告書の中で、八五年当時辺野古弾薬庫に確かに毒ガスが貯蔵されていたという事実が証明されたのである。

本来、弾薬の貯蔵に関する情報は、情報公開制度ではきわめて手に入れにくいものである。今回のこの報告書の入手はその意味で極めて貴重なものであったといえる。

問題の公文書は、辺野古弾薬庫を管轄する米海兵隊第三軍役務支援群（3 FSSG）第三補給大隊弾薬中隊が作成し、海軍省内の海洋システム軍司令官に提出した、「弾薬、火薬、不活性武器材の貯蔵分布に関する年次報告」というもの。弾薬庫番号、型とサイズ、貯蔵指定、許容量、貯蔵物質種類、貯蔵余裕能力が表にまとめられている。

貯蔵認可容量の総計は、高性能火薬約三七〇〇トン。八五年次には約二二二〇トン分、許容量の六〇％が実際に弾薬類で埋まっていた。弾薬庫に貯蔵されていた物質は次の通り。まさに真正正銘の武器、弾薬の数々。迫撃砲、手榴弾、誘導ミサイル、ミサイル、

会や国会レベルで問題になったのか。名護市久志のキャンプ・シュワブに隣接し、大浦湾に面した小高い海岸の台地に広がる辺野古弾薬庫は、もともと陸軍の弾薬補給基地であった。ここが米海軍、海兵隊に移管されたのは七七年。現在は、第三海兵水陸両用部隊が海兵隊の作戦、演習用の弾薬貯蔵庫として使用。各種弾薬の保管、補給業務が行われている。弾薬庫の周辺は二重、三重に金網

大砲、小火器、照明弾、ダイナマイト、雷管、火薬、焼夷弾、発煙弾、CS、白燐、以上九種。弾薬の中にはつきりCS、白燐といういわゆる毒ガス、化学兵器の存在が明らかにされたことに注目したい。

CSガスと白燐

貯蔵指定が「化学」となっている弾薬庫は全部で九個。種類は主に、CSガスと白燐であった。毒ガスは、生理機能から神経剤、皮膚剤、刺激剤、精神剤に分類されるが、CSは刺激剤に当たる。毒性効果が致死剤ではなく、非致死剤で、効果も持続性ではなく一時的なものという特質からしばしば「暴徒」鎮圧用の催涙ガスとして用いられている。しかし、これはあくまでも一般的分類上のことで、その兵器としての機能は必ずしも何時の場合にも同じとは限らない。

CSがベトナム戦争で使用されたことは米政府も認めている。その時CSは単なる催涙ガスではなく、ゲリラの隠れている壕に投げ込まれ致死剤となった。使い方と目的で非人道的な「化学兵器」そのものになるのがCSの本来の姿である。

白燐（WP）は黄燐とも呼ばれる。致死量はQ1g。特殊兵器に多用される猛毒の化学物

二月十六日の所得税確定申告の初日。この日は、税金と軍事とのかわりを問題にする私たちの会にとっては、毎年一回めぐってくる反戦抵抗の意思表示行動の開始日で、「金を払う時にこそ、しっかり国に対して意思表示をしよう」と、多くの人々に宣伝する日である。三月十五日はこの申告期の最終日。この日も私たちは、知ってか、知らずか、しかしたく違憲支出分まで含む税金を「払わされている」納税申告者たちの中に入って、違憲軍事費分税金支払い拒否の意思表示に出かけている。現在の事務局を担当している相模原に集まっているグループのメンバーと相模原と町田の市民の協力による申告行動を中心に報告したい。

石谷 行

良心的軍事費拒否の会

さまざまな反応

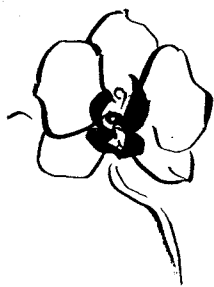
まだ寒さが身にしみる二月十六日の朝、八時四十五分に相模原税務署近くで簡単な打ち合わせを済まし、税務署に九時に着くとただちに門の外で行動を開始する。十人足らずの中年と初老かと思われる年頃の男女が税務署の塀に沿って横に並び、(許可を取っているわけでもない)、交通の邪魔にならないように配慮し、「人殺しの税金は払えませんが」の横断幕を広げる。ハンドマイクを使い、チラシを配りながら税務署の中と外の人々に訴えを始める。道行く人々に丁寧に呼びかけながら「黙って払うの！軍事費分の税金を」と書かれているチラシを配る。会の歌をテープで流したり、歌ったりもする。この情宣活動を目にする人達はいろんな反応をする。見

慣れないこの集団行動にすぐ関心を示して賛同する人、げげんそうな表情で避けようとする人、少したつて主旨がわかるとおもむろに同意の気持ちを顔に表わす人、「余計なことをするな」と言いたげな態度の人、早く申告をすまして忙しい日課に追われるようにこそくさすと通り過ぎて行く人。短い時間と狭い空間の中に人々の生活の一端が垣間見られる。相模原は一九七二年にベトナム戦争への戦車の搬出を阻止する市民行動で広く知られた米軍補給廠が今なお市の中心部を占領し、軍需産業三菱重工田名工場を抱える昔ながらの軍都である。申告期の最終日三月十五日には、今まで「開拓」したことがなかった町田税務署で申告行動の幕を閉じた。町田市は革新市政が続き、福祉行政が比較的進んでいるといわれているところ、だが、近くの厚木の日・米両軍の基地からの爆音がやかましい。私たちの税金の使われ方を考えるには絶好の地区の一つでもある。

請願文を長々と

今年は、最近とみに際限なく膨れ上がる在日米軍への『思いやり予算』を防衛庁長官時代に創設・工作した張本人・金丸信さんの汚

税金は払えませんが 反戦の意思表示—納税拒否の日



職がマスコミを賑わせたこともあってか、私たちの情宣行動への反応は一般的に言えば、例年にまして好意的であった。町田税務署前で、寒さに耐えながら呼びかけていると、わざわざ暖かい缶入りのコーヒーを余るほど買ってきて差し入れてくれ、「まったく同感です。しっかり訴えて下さい」と応援してくれた人もいた。四、五十分間門前で情宣活動をしてから税務署の構内に入る。

申告は給与所得者の多くの場合、すでに払われている税金から軍事費分を返してくれという還付請求の申告をする。九二年度分税金は、そのうちの六・三パーセントが「国を守るため」につかわれると国税庁が源泉徴収票の裏などに印刷して教えているので、その分を計算して、控除欄の一つに「違憲軍事費分控除」と赤で書き込んで申告する。自由業者など一般申告をする人は、一般申告用紙の控除欄に記入する。額は追徴税が多く掛けられないように千円とか二千円の象徴額を記入して、その分を不払いにする。私は「違憲軍事費は払えない」をもじって一八七一円不払い控除申告する仕方で行っている。

税金はあくまで個人の責任でなされるので、一人一人の状況にあった、良心的な申告を勤めており、自らも実行している。初日の申告は相模原の鎌田さん、最終日は町田の宮本さ

んと野副さんがそれぞれ申告用紙に書き込んで、署長面会を申し出た。今年も税務署が誠意をもって対応せざるを得ないようにと、わざわざ請願書を申告者各自と会が作成している。面接の席で大きな声で読み上げて手渡す方法をとった。野副さんの請願文は非常に長く、質も濃いもので、立ったまま神妙に聞く受取側にとっては身にこたえる文書であったであろう。いずれの署でも署長は「忙しくて」と、会ってはずれず、総務課長や代理の署員が対応した。町田署で請願を受けつける場所について、少しもめたが、結果的には近くで仕事中の署員の耳に入りやすい場所ので、長々と請願文を読み上げることができて良かった。

良心を促す行為

軍事費拒否の申告行動は一九七四年に会が発足して、東京の三田税務署で始めて以来もう二十年になろうとしている。初めはまったく先が見えないスリルに満ちた運動で、若いパワーと学者や牧師と一緒に税務署や大蔵省へと動き回ったり、議会への働きかけもやってみた。会も年とともに変化してきた。この会のメンバーを中心に原告団を組んで国を被

告に裁判もやり、いまは最高裁の判決待ちである。良心的拒否の会は関西グループあり、千葉グループあり、沖縄では今は今休会しているが、伊江島の阿波根昌鴻さんなど活動は健在である。申告は個人がするのでこの運動は集団ではなくてもできる。しかも税務署は確実に個々の申告に丁寧に対応しなければならぬので、この方法で出される声を無視することはできない。これが大衆的に実行されたら税務署はまず事務上パニックする。ゼネストにも匹敵する衝撃を政府や、米軍に与えることは疑う余地がない。そして、憲法論議を素通りすることはよもやできない。軍事費抵抗の申告をする人の数はまだ限られている。もう一工夫が必要だ。湾岸戦争の時の多国籍軍への支出に対してはかなりの数の人がその分の税金を不払いにして取り組んだ。自分が払う税金を「人殺しに使わせてはならない」という良心の促す行為であった。

同じ人間として…

私たちの申告行動に対して、税務署の職員たちの反応は全体的に見て悪くなかった。その職場の中での精一杯の好意はあったものとは見ている。彼らはやがて連帯できる対象

昨年の五月、横浜でおこなわれた「太平洋民衆フォーラム」のあと、横須賀でPCDS（太平洋軍備撤廃運動）の会議がもたれた。フォーラムもそうだったが、冷戦構造の崩壊のあと、太平洋をめぐる反戦・反核の運動の今後について話しあわれた。その総括の結果は、名称の若干の改訂と「わたしたちのめざすもの」(Mission Statement)の変更にあらわれている。最近、公表されたものを報告しよう。

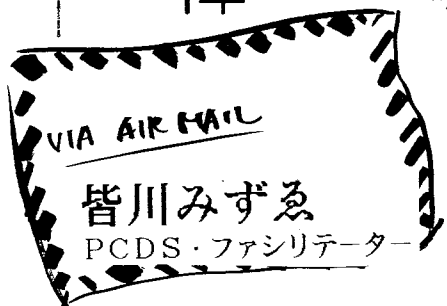
名称は、日本語名と略称はそのまま、英語名は、以前はPacific Campaign to Disarm the Sea — いわば、海の非軍事化太平洋運動と訳せようか — から、Pacific Campaign for Disarmament and Security 非軍事化と安全保障のための太平洋運動と変更された。

PCDS アップデート

名称を「非軍事化と安全保障のための太平洋運動」に

なお、以下に新しい「わたしたちのめざすもの」をあげておこう。

- 「わたしたちのめざすもの」
- 「太平洋軍備撤廃運動」(PCDS)は軍事介入と戦争の脅威から、太平洋地域とそこに住む民衆を解放するために活動する。
- PCDSは、相互の安全保障を追究する世界的な活動の一環として、調査研究、情報交換、相互援助のネットワークとして機能する。
- PCDSは、これらの幅広い目標や原理に関する、地域や国レベルのイニシアチブに貢献し、とりわけ次の分野での活動を援助する。
- 原子力艦、あるいは核搭載可能な水上艦や潜水艦の海外における通過、寄港、および配備。
- 先端兵器類、とりわけ、核兵器の製造、実験、輸送、配備。



- 軍事演習、とりわけ、挑発的性格の演習、環境に有害な演習。
 - すべての海外軍事基地や施設の撤去、前方配備されている海軍力の領域への撤退。
 - 軍事的活動や施設の環境的、社会的影響、とりわけ、先住民や地域社会への影響。
 - 軍事基地の、有益な非軍事的機能への転換。
 - 主権、自決権、国家や民衆同志の協力、また、経済的正義を尊重することに基礎を置いた、地域的な安全保障の追及。
- この「めざすもの」にてらしあわせても、日本がいかに課題を背負いこんでいるかがわからう。世界各地で、米軍の海外基地の閉鎖や、閉鎖を求めている動きが進んでいる中、日本列島だけが取り残されているという感はない。また、PKOをめぐる自衛隊や政府の動きには、アジア各地の民衆から懸念の声がこえる。
- PCDSの国内ファシリテーターの役目とは、太平洋各地の動きをお知らせするとともに、日本の運動や現状をより活性化させることにある。この役目がますます重要になっていく。定期的にレポートできれば、と思っている。

(**7ページから)

質である。化合物は重度の火傷と重症の中毒、肝腎炎を引き起こす。火傷は軽度に見えてもほとんど死亡。骨まで焼き殺すことができる。

爆発事故が起きたら…

マスタープランはさらに、弾薬庫の爆発物安全距離(ESQD)を、国道三三九号の外まで描いて、貯蔵中の弾薬が爆発した場合、市民が国道を通行中であれば、歩いていても車に乗っていても安全は保障されない、被害者になっても仕方がないということを明らかにした。実際には気象条件などにより危険範囲はもっと広がる。

一方この爆発物安全距離の外側、弾薬庫に

(**5ページから)

名寄に行って、地域の人々の生身の言葉を聞いて帰ってきた今言えることは、あるいは、この深刻さを確認してきた、ということだけかもしれない。しかしこれだけははっきり言える。「自衛隊を削減しよう。だが、私の町の部隊はその準備ができるまでいなくなるな」。各地の平和運動がこう主張したって全然おかしくない。軍縮の要求を強める一方で、「脱軍隊」の道を描くこと、そして、その前提である「防衛情報の公開」を実現して

隣接する隊舎三棟と基地内道路沿いに「フォールアウト・シェルター」(Fallout Shelter)四基が設置されていることも明らかになった。フォールアウトとは、放射能降下物に対処するという意味で使われる用語。核の存在こそ確認できないものの「沖繩の米軍基地に核シェルター」は存在が明らかになり、名護市民の生命が軽視された基地の実態が浮き彫りになった。

なお、名護市は梅林氏の公表後、キャンプ・シュワブの基地司令官に事実関係の解明を申し入れた。ちなみに在沖海兵隊報道部のハーバート・S 渉外官の話によると、CSも白燐も「通常弾薬」で、八五年当時も現在も貯蔵されているという。

いくことが、今後の平和運動の課題だ。

● フォーラムを準備した国労争議団は、分割民営化の容赦ない攻撃にさらされながら、地域で働き、生きることを選んだ人々だ。その闘いの歴史と心情が、フォーラムを支えた大きな力だった。その心に少しでもふれられたことも、名寄への短い旅が僕に残した財産だった。ありがとうございました。

(**9ページから)

である。署内の申告にきた人たちの中に極く二、三人の人が、「どけ、邪魔だ!」とか、相模原税務署で、こちらが請願文を読んでいると、「(基地の存在は)いいことだってあるんだよ!」などと声を出す人もあった。基地の町でそんな声が出てくるのは当然予想できることだ。こちらが興奮しないで相手の気持ちや事情を聞いて、コミュニケーションを築かねばならない。私たちの行動に腹を立てて、「こんな勝手なことを税務署がよくも許しているもんだ。やめさせろ!」と税務署員に食ってかかろうとする人もいた。「請願する権利が保障されているんですよ」というと、「権利ばかりいうな!」と捨て台詞を吐いていってしまった。こんな反対の立場の反応は一見、些細なことだ。しかし、多くの人に同意を得るためにはコミュニケーションをどう可能にするかなど、後でみんなで話し合っただけだ。戦争反対の私たちは、ガンジーの言うサッチャグラハ(真理保持・積極的非暴力)を会の行動手段として選択している。だから、税務署の署員の人々や意見が対立している関係の人々にも、ともに最後の勝利に一緒にあずかれる同じ人間同士として接するように心がけている。こんなところにも、「平和を作り出す人」に成長するための実践的に訓練する場を見いだしている。

読者から

紙面の都合でこれだけしか
ご紹介できませんが…(編)

●会費納入もカンバもすつかりごぶさたして
おりました。本日別途送金しました。通信会
費とカンバにあててください。なお、今まで
「小松登久恵」の名で送っていたいただいた
だけではないでしょうか。こちらは旧姓です(ゆ
くゆくは夫婦別姓にたどりつきたいので)。
厚木、横田の騒音判決の記事、よかったです。
マスコミ新聞では伝えきれない、原告の方々
の横顔を伝えていると思いました。

(浦川登久恵/熊本/主婦)

●ごめんなさい。積ん読だけでもよいとい
郵送を受け取っていましたが、今月号(七号)
初めて全部読みました。内容は全て一つ
一つ個別の顔を持った大切なものばかり、お
ろそかにできる記事はありませんでした。次
号を全部読んで次々号に続けたいと思います。
表紙の「木の葉船団」の写真を改めてじっく
りながめています。(荒井康裕/京都/保父)
●六号「編集室から」(た)さんの、四〇才
になって「とくにカンガイもない…どうだま
いったか」にはまいったまいった。しばらく
笑ってしまいました。(EY/横浜/高教組)

編集室から

●前号で一時金カンバのお願いをしたところ、
多くの方々がそれに応えてくださいました。
どうも、ありがとうございます。しかし、
依然として厳しい財政状況にかわりはありま
せん。今後も、「核も基地もない世紀」を目
指して、風通しの良い、しなやかな運動をと
心掛けて行きたいと思っています。これから
もぜひ、物心両面から私たちをお支えくださ
い。よろしくお願いします。(ま)

訂正とおわび

前号(3月20日発行・第8号)で大きな間違
いがありました。

●まず、題字横の大きな号数表示が「7、通巻8
6号/1993.2」となっていたのですが、「8
、通巻87号/1993.3」の誤りでした。

●5ページの呉東正彦さんの「NEPA」訴訟の
記事が途中で切れてわからなくなっていました。

(11ページ中段へ)の表示が抜けていました。
また11ページ中段の右端にも(5ページから)
の表示が抜けていました。全くの不注意でご執筆
いただいた呉東さんには大変申し訳ないことをい
たしました。おわびいたします。(編集部)

月刊キャッチピース

(月刊トマ喰い虫改題)

No. 9 (通巻88号)

1993年4月20日発行

発行●脱軍備ネットワーク・キャッチピース

発行所●〒223 横浜市港北区箕輪町

3-3-1

☎045(563)5101

FAX045(563)9907

郵便振替●東京6-136148「キャッチピース」

編集●キャッチピース編集部

定価●100円(通信会員年間3000円)



●カンボジア情勢が厳しさを増している。も
し自衛隊員が「武器」でカンボジア人を殺し
たり傷つけたりすることがあったら…と考え
ると夜も眠れない。今年の憲法記念日は銀座
へ。「五・三つらぬこう平和憲法/九条改悪
を許さない女たちのつどい」に出て、「改悪
NO」と叫ぶ予定。

平和憲法と同じ年生れの(え)